

【事例48】低温やけどを防ぎましょう！

【事例】こたつで就寝し、朝起きると足指から出血していてやけどしたことに気付いた。左足の指2本を切断し、中指は皮膚移植を行った。

(相談者：70歳代・男性)

【対処法】

- ① 低温やけどは、暖かく感じる程度の温度であっても長時間皮膚が接触することによってやけどになります。普通のやけどに比べ、痛みは少なく水ぶくれもできにくいので、一見軽そうに見えます。特に高齢者は感覚が鈍っていることが多いので、重症化しやすいようです。
- ② 44度でも3～4時間の接触で皮膚が損傷を受けるといわれています。ですから、就寝時には、布団が温まったら湯たんぽやあんかは必ず布団から出す・カイロは使わない・電気毛布は低温にしておく、などの注意を守ってください。
- ③ 低温やけどは水で冷やしても効果はありません。違和感があるようなら、医療機関を受診するよう周りの方が気を付けてあげましょう。

※困ったら、企画課の消費相談窓口82-1115に相談しましょう。